

第 14 回 下田市立学校統合準備委員会

日 時	令和 3 年 3 月 16 日 (火) 14 : 00～16 : 10	場 所	道の駅開国下田みなと 4 階 会議室 3	
委 員	氏 名 (役職名)	出欠	氏 名 (役職名)	出欠
	森本 幸平 (会長)	○	武井 敦史 (副会長)	○
	鈴木 元一	○	高橋 正志	○
	礪崎 真紀子	○	鈴木 健五	○
	森本 秀樹	○	山本 憶久	○
	山田 貞己	○	日吉 智之	○
	森 英一	○	酒井 瞳	×
	松永 祐一	○	鈴木 賢一	○
	進士 高広	途中出席	清野 大樹	○
	渡邊 洋之	○	高瀬 雄司	×
	糸賀 秀穂	○	外岡 康光	○
	正田 成彦	○	山村 智	×
	錦織 慶子	○	鈴木 めぐみ	○
	松村 守人	○		
事務局出席者 職 氏 名	教育長 佐々木 文夫 学校教育課 課長 糸賀 浩 学校教育課 参事 和泉 多恵子 学校教育課 課長補佐 土屋 仁 学校教育課 課長補佐 平川 博巳 学校教育課 指導主事 檜山 和人 学校教育課 主査 原 隆史 下田東中学校 教諭 佐々木 浩彦			
発 言 者 名	発言内容及び事務局回答			
学校教育課長	1 開 会 14 : 00 定刻となりましたので、これより第 14 回下田市立学校統合準備委員会を開会させていただきます。 まず初めに下田市教育長から挨拶をさせていただきます。教育長、よろしくお願いします。			
教 育 長	2 教育長挨拶 皆様、こんにちは。本日は年度末のお忙しい中、本委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。 前回、第 13 回の会議以降、校歌、校章、通学、校舎、そして、学校の運営に関することや部活動について、様々な会議を開催し検討や準備を進めてまいりました。本日は、そうした様々に検討してきたことのご報告をさせていただきます。 本日は、大きく 5 点についてご提案とご報告がございます。			

	まず、1点目としまして、校章の市民投票について、2点目としまして、部活動について、3点目としまして、通学について、4点目としまして、令和2年度の各準備部会の経過報告について、5点目はその他としまして、新中学校の整備工事の進捗状況について、以上の5点について提案や報告をいたします。 これまで時間をかけ、皆様の参画を得ながら協議を重ねて参りました。通学については、保護者や地域の方の声を大切にしながら様々検討や準備を進めて参りました。 また、学校や教育の中身などの具体的な内容については、8つの準備部会、統合企画研究会といった会議の他に、特別活動、総合的な学習の時間、部活動など、担当者レベルの検討ワーキンググループを立ち上げ、時間をかけて様々な角度から協議を重ねて参りました。 この統合準備委員会は、新中学校開校に向けた様々なことを決定していかなければいけない会議です。本日は、これまでじっくりと時間をかけて協議してきたことの中で、特に、校章、通学、部活動の3つについて、案として整理させていただきました。 新中学校開校まで、残すところ約1年となりました。ここからは限られた時間の中でスピード感を持って、学校の教育の内容や運営面の準備をしていかなければいけません。 そのため、本日は、その大枠となる提案についてご協議いただき、そして、皆様の承認をいただいたのちに、答申案の承認もお願いしたいと思います。 本日も、未来の人材育成を実現する新たな学校づくりに向け、建設的に議論して参りたいと思います。皆様の忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。
学校教育課長	ありがとうございます。 それでは、ここからの議事進行につきましては、下田市立学校統合準備委員会規則第5条の規定により、森本会長にお願いしたいと思います。
会 長	改めまして、皆様、こんにちは。本日もどうぞよろしくお願いいたします。卒業式まであと3日に控え、新中学校もあと1年で開校を迎えます。本日も引き続き、新中学校に係る議事について円滑なご審議のほど、よろしくお願いいたします。 それでは、議事に入る前に会議成立について事務局から報告をお願いします。
事務局担当 (原)	本日、委員総数25名のうち、21名出席されておりますので、下田市立学校統合準備委員会規則第6条の規定により本日の会議は成立となります。
会 長	ありがとうございます。

会 長	3 議 事 (1) 新中学校校章について それでは、これより議事進行をさせていただきます。 次第に従い、「(1) 新中学校校章について」の説明を事務局からお願いします。
事務局担当 (原)	【 配付資料確認後、資料1に基づき「新中学校校章市民投票結果」報告及び「答申内容案」提案 】
会 長	ありがとうございます。それでは、ただ今の事務局からの説明の中で、ご意見等ございますでしょうか。
全 委 員	意見等なし。
会 長	それでは、ただ今、事務局から説明がありましたが、本日は統合準備委員会として、新中学校の校章を選定する形になります。以前からも確認させていただいておりますが、校章の選考方法としましては、「静岡大学教育学部協力のもと、下田市立学校統合準備委員会が市民投票結果を参考に選考し、下田市教育委員会へ答申、下田市教育委員会の承認をもって最終決定となります。」と投票要項にも示してあります。 2月に実施された市民投票結果が示されましたが、結果を見ますと「校章①340票」「校章②630票」「校章③413票」「校章④338票」という結果でした。 事務局提案として「校章②」を新中学校校章とという内容でしたが、統合準備委員会として、新中学校校章として「校章②」とすることよろしいでしょうか。
全 委 員	異議なし。
会 長	ありがとうございます。それでは「校章②」を新中学校の校章とすることを決定し、教育委員会へ答申させていただきたいと思います。また具体的な答申内容案につきましても、事務局提案のとおりでよろしいでしょうか。
全 委 員	異議なし。
会 長	ありがとうございます。しっかりと答申をさせていただき、答申後に具体的な答申内容等を委員の皆様へ送付させていただきますのでよろしくお願いいたします。

会 長	(2) 新中学校部活動について それでは、「(2) 新中学校部活動について」の説明を事務局からお願いします。
事務局担当 (原)	【 資料2-1及び資料2-2に基づき「新中学校部活動について」及び「新中学校入部希望調査案」説明。「答申内容案」提案。 】
会 長	ありがとうございます。それでは、ただ今の事務局からの説明について、ご意見等ございますでしょうか。
渡 邊 委 員	私の思いや経験、質問を含めてさせていただきます。新たに開設する部活と断念する部活動が明記されています。12日に、この資料を拝見しまして、個人競技の3種目がすべて断念されたことが非常に残念です。これらの部活について検討していくということが出されていたわけです。当然、生徒数も減少していきます。少なくとも、この統合準備委員会が最上の会議だと思います。部活動について、事前に議論する場を設けて欲しかった。あとは、承認してくださいというのはおかしいのではないかと。22年間ボランティアで陸上を指導してきました。そうした中、陸上部の新設を楽しみにしてきた子供たちもいます。当然、水泳部や剣道部も同じことが推察されます。非常に残念ですが、いきなりここに出されて残念。私も納得できないのは、他の部活に所属していても大会に出られるというのが理由。断念した理由にはならないとこのように思っております。これを決めた、統合企画研究会がどういう構成になっているのか、また体育の先生が入っているのでしょうか。これについてまずはお答えいただきたいと思います。
土屋課長補佐	まず今回の内容については、あくまでも事務局案として提案をさせていただいたもので、それを決定するのはこの統合準備委員会になります。統合企画研究会の構成ですが、各部会の部会長である中学校4校の校長、小学校3校の校長、中学校教頭2人、教務主任2人と事務局で構成しています。教育委員会では現場のことが分かりませんので、統合推進部会内の組織として設置させていただき、この会議で検討を進めて参りました。現在、検討中としていた7つの部活動全てを設置したかったのが本音ですが、教職員の人数、顧問の人数など様々なことを考慮してきました。
土屋課長補佐	【 追加資料に基づき「部活動決定までのプロセス」説明。 】
渡 邊 委 員	私の思いを少しお話しさせていただきたいと思います。統合企画研究会、校長先生を中心とした会議で今回の提案をされたということは理解しました。確かに水泳の専門の先生や陸上の専門の先生など、賀茂地域においては少ない。現実はどうなんですか。本来ならば、そういった先生たちも入って議論していただきたか

	ったが、それは致し方ない。陸上をやっている子供たちが、それ以外の水泳、剣道もそうだと思いますが、400 人規模の学校になったら、陸上や剣道や水泳など個人競技の種目ができると思っていたはずです。今日は、決定しなければいけないと思いますので、私の気持ちを述べさせていただきました。 もう 1 点、部活動活動方針の中に令和 4 年 4 月から全員が部活に入ることを基本とするが、例外も認めるとあります。また例外の可否判断等、その都度、学校長が判断するとあります。そうしますとその時々为学校長の判断によって変わってくると思われ、それはおかしいのではないのでしょうか。学校長が変わるたびに判断が変わっていいのかなと。
教 育 長	部活動は基本的には学校長が決定して運営していきます。今回は、新しい中学校がないため、教育委員会と学校の先生がどういう風にしていかと企画研究会で検討してきました。最終的に校長の判断とはなりますが、学校も組織ですので、その組織で協議し、最終的には校長が責任者として判断し決定していくということをご理解ください。資料の 2－1 の 4 に部活動運営プロジェクト会議を設置すると説明させていただきました。この会議は運動部の先生の他に文化部の顧問の先生にも入っていただき、新中学校で運用することとなる部活動の規定、入部廃部等規定についても検討します。改めてになりますが、校長判断と表記していますが、組織で協議してそれを校長が決定するということをご理解ください。
渡 邊 委 員	新設されるサーフィン部について、私は、サーフィン部ができるのは全国的に見ても注目を浴び、非常に良いことだと思います。しかし、同時に外での活動、海における活動にもなるため、危険も伴います。また部員の送り迎えをどうするのか、練習をどうするのかなど、課題も多くあると思います。かつて浜名湖で悪天候の中でボートが転覆して尊い命が失われたということもありました。安全面をどのようにして、どういう人が指導するのでしょうか。
土屋課長補佐	企画研究会でもそういった協議をしてきました。現時点の活動内容案は、平日は敷根プールや校舎を使って体力強化を行い、座学やマナー海上安全を、現場ではなく学校周辺で行います。海での活動は、土日のどちらかで、白浜なのか吉佐美なのかは未定ですが、海の実技を行います。安全面は、日本サーフィン連盟の理事長の方が白浜におられますし、またマリネット下田というマリンスポーツを中心にその普及活動をしている団体もあり、そういった方々に海上安全のお願いをする予定です。顧問の先生だけでなく、市内のプロサーファーと 2 人体制で現場に行き、また生徒 3 人に対し 1 人は大人が必ずついて海に入ることなど、必ず大人がつかないと海での活動はしないというルールを決め、準備を進めていきたいと考えています。

渡 邊 委 員	こんなことがあってはならないのですが、もし生命に関する問題が生じた場合には、誰が責任をとるのですか。
教 育 長	部活動に何か発生した際は、現時点でも4中学校に部活が各々設置されていますが、それも同じで学校長が責任をとるということになります。以上です。
糸 賀 委 員	部活は前回までの資料で、現在検討中の部活動として7つ示されており、この中に陸上、剣道、水泳についての課題等として、例えば指導者不足の問題が挙げられています。またサッカーは指導者や練習場所の問題が記載されています。今回示された資料の中にはそういった部分の検討内容がありませんでしたので、今日は時間的に無理なようであればまた次回、示していただきたいと思います。
教 育 長	まずサッカー部等の外部活については、下田中学校のグラウンドについては、整備されるとはいえ、手狭ですので、敷根グラウンドを使わせていただきたいと思います。平日夕方は、敷根グラウンドを使っている場合は練習場所を他に変えて練習できないかなど検討してきましたが、敷根グラウンドをお借りし練習することをあくまでも想定しました。指導者については、人事の問題ですので細かく発言できませんが、サッカーの指導者を経験した先生を配置できるのではないかと考えています。陸上については複数の種目があり、それに対応する教職員配置は少し厳しいのではないかと考えています。
糸 賀 委 員	こちらとしては、そういった陸上は複数の種目があって、それによって指導者が十分確保できなかったというようなことを聞きたいのだと思いますが。
教 育 長	安全面など、どういう条件であればクリアできるかをじっくりと時間をかけて協議して参りました。その中で統合したときの先生の人数についてですが、22人程度の先生を確保できるのかなど。またそれ以外でも、例えば4つの学校が1つになることによって、先生方が今活動している部活動の指導についても心配であるという声も挙がりました。4つの学校の部活動が1つになると複数の先生が必要ではないかと。具体的には、例えば男子、女子バレー部各1人の顧問にもう1人の先生を両部兼用ということで顧問をつけて1.5人というように、時間をかけて協議してきました。そういった協議を重ね、今回の提案をさせていただいております。
副 会 長	事務局から説明資料の提示をお願いしたいです。渡邊委員のお話を伺っていて感じたことですが、指導者の確保が難しくなっている中で、先生たちにとって部活動はあくまでもオプションとなっていており、部活動を法的に断ることができるという状況となっています。そういった問題を共有するのがこの委員会だと思

	います。開設を断念したのは個人競技、生徒の中には、決まった仲間関係が苦手で、独立して頑張りたいという子もいると思います。団体競技の中で苦しむ子もいると思いますが、そういった子をどのように議論されたのかを知りたいです。部活動に加入する判断は、最終的には保護者及び生徒の意見で決まることだと思います。国は、全国的に部活動を維持することは困難で、地域で指導者が確保できれば令和5年度以降は部活動を地域に移行していこうという流れになっていきます。土日の部活などは段階的に縮小していく流れになると思います。その上で、学校としてまた教育委員会としてはこの部活動は設置できないから、有志でクラブチームを作ってくださいという論じ方が必要ではないでしょうか。追加資料で書いてある通り、すさまじい検討がなされたんだと思いますが、多角的な検討も必要だと思います。地域で子育てを行うというステップとして、次回以降、そうしたことを説明して欲しいと思います。
教 育 長	地域型スポーツ開設についても検討していかなければいけません。しかし、下田周辺地域の現状を見てみるとまだまだ…。では子供たちをどこで見ていくのか。今の段階ではすぐに移行していくことは厳しいと。そうするとこれまでと同様の部活動となり、先生方、学校に多くの負担をかけることとなります。今後は、地域への移行について問題点を研究するため、組織を作っていければとも思っております。何しろ指導者の確保が非常に困難です。例えば磐田市などは、大学があり、プロスポーツがあり、多くの指導者がしっかりしている状況の中で出ています。また私の考えでは、将来的には間違いなく、学校は、先生は部活動から手を引くのではないかと感じています。地域と上手くマッチングしたときに地域スポーツがより発展していくとは思いますが、現実的にはまだまだ先だと感じています。
日 吉 委 員	個人部活はぜひとも残していただきたい。理由の1つ目は、個人競技が得意とする子、また団体競技がなじめない子、生徒数減少の中で将来的には野球部は硬式をやりたい子など、野球部が休部したときの受け皿として、陸上について再度検討してほしいです。2つ目としましては、野球部より、陸上、水泳を希望する子が多く、それらアンケート結果を踏まえていただきたい。説明があまりにも不十分だと思います。3つ目、サーフィン部は、デメリットが払しょくされない限り設置しないで欲しいです。サーフィン部ができたおかげで陸上、剣道、水泳ができなかったとしたら筋違いです。ぜひ再度検討してほしいと思います。
錦 織 委 員	私は剣道部出身です。私の時の顧問は未経験者で、地域の方が指導に来てくれていました。顧問が剣道をできる先生なら一番良いと思いますが、そうでなければ地域の方で指導者がいれば対応できるのではないかと思います。ぜひそういった地域の声も聴いていただきたいです。今も高校の剣道場に通って頑張っている

	子もいるので、ぜひそういう子も見ていただきたいと思います。
松 永 委 員	サーフィン部については、これまで配付されている新中学校の日課表などを見ると、平日の海での活動は無理ではないかと思います。土日に行けるのは月に4回程度。年間に何回程度できるのか。平日は、座学でという説明もいただきましたが。サーフィンは話題性があると思いますが、部活というのはやはり一生懸命練習して達成感を味わうことが重要だと思います。サーフィン部は、平日トレーニングをして達成感を味わえるのかと思ってしまいます。サーフィン部として立ち上げる必要があるのか。それよりも、陸上、水泳などを立ち上げた方が良いのではないのでしょうか。
教 育 長	皆さんもご承知のとおり、サーフィンはオリンピックでも正式種目となっています。レガシー、市として盛り上げていこうということを、子供たちの意見を踏まえ、精神的なものがサーフィンにあっていのかどうかはわかりませんが、個人で強くなりたいということは個人種目として成り立つのではないかと私は考えています。初めてサーフィン部を設置した九州の青島中学校にも聞き取りを行い、メリットやデメリットなどがあることは確かです。青島中も週1回の海の実習とのことですが、子供たちは興味を持って取り組んでいるということを知りました。そういったことも踏まえ、今回立ち上げようと、そして、安全面については、多く専門家の協力をいただきながら立ち上げようという形で提案をさせていただいています。
森 委 員	運動部について、大半が球技となっています。サーフィン部だけが球技ではありません。個人的には、高校では陸上部でした。運動はしたいが球技はできない子、そういった子供たちも多くいるのではないかと思います。その受け皿がサーフィン部だけとなると、何かお手軽ではないような気がします。また費用面でもウェットスーツなど、レンタルもあるかもしれませんが大変ではないかと。そういった面では陸上部ならば、通学シューズでも活動できます。個人的には、海も近いのでサーフィン部も良いことだと思います。僕らはよく自転車でサーフィンに行っていましたが、そういった部分を学校でやってくれてカバーしてくれるのならば、良いなという面もあります。
会 長	よろしいでしょうか。今、多くの意見が出されていまして、ここでは決定できないと思いますが、事務局いかがでしょうか。
教 育 長	既に表示しておりますが、7月までには確定したいということもあり、入部希望調査実施を含め、次回、5月まで伸ばすことは何とかできると思います。

会 長	それでは今回部活動について、決定せず次回へ持ち越したいと思います。その他にご意見いかがでしょうか。
鈴木(め)委員	現在中学校の保護者の方に聞くと、今ある部活動の中で、個人部活は卓球だけだと聞いています。昔はテニスもあったと思いますが、個人種目が卓球だけになると、例えば1人がミスするとそれがいじめに発展し不登校につながるのではないかと不安になります。部活によって、子供が心に傷を負うと、学校に行けなくなる可能性もあります。そういった面を踏まえると個人種目も必要だと思います。また、現在発達障害の子供が6人に1人いると言われています。その発達障害の子は団体の中で生活できない難しい子もいるので、学校に楽しく行くことができる、3年間通える中学校にして欲しいです。卓球以外は個人種目がないので、水泳、陸上など、そういう環境を作っていただけたら、そういった子供の気持ちに寄り添った個人種目を作っていただけたらと思います。
渡 邊 委 員	長年の問題であった今回の4校の中学の統合です。資料を見ますと生徒数について3年間は400人台をキープします。今回の個人種目3種目を断念せず、3種目ともに土俵に乗せて、3年間やってみてはいかがでしょうか。
外 岡 委 員	長期的に考えることは必要だと思います。初年度から3年間キープするというお話がありましたが、その後は確実に生徒数が減っていきます。そういった中で部活数と生徒数を考えると、運営が困難になりそうな部活が想定できます。仮に男子200人を10で割ると20人、3学年で分けると約6～7人。部活によっては必ず偏りが出てきて、それぞれの部活が運営可能な枠は十分考えておかなければいけません。吹奏楽も小編成や大編成などがあります。適正人数や最低人数を考慮して部活の開設を考えていかないといけないと思います。例えばサッカーや野球は男子のみ加入する部活になるのですか。
教 育 長	サッカーや野球は女子も受け入れる男女混合になります。
会 長	よろしいでしょうか。時間も押しておりますので、意見は以上とさせていただきます。 他の地区の話を聞く機会があつて、そこでは学校に部活が3つしかなく、その3つの中から選ばなければならない現実がある中で、ここ下田では、10部活あるものを更に+4つ増やそうという事務局の思いを考えていただければと思います。色々のご意見があると思いますが、一旦、10分間、休憩とさせていただきます。 < 休 憩 15:20～15:30 >

会 長	(3) 新中学校通学について それでは、「(3) 新中学校通学について」の説明を事務局からお願いします。
事務局担当 (原)	【 資料３－１及び資料３－２に基づき「新中学校通学について」及び「小学校区ヒアリング概要」説明。「新たな方針案」「答申内容案」提案。 】
会 長	ありがとうございます。それでは、ただ今の事務局からの説明について、ご意見等ございますでしょうか。
全 委 員	意見等なし。
会 長	特にないようであれば、事務局からの説明でもありましたが、新たな方針案について、統合準備委員会としての方針としてよろしいか伺います。いかがでしょうか。
全 委 員	異議なし。
会 長	ありがとうございます。また、答申内容案について、事務局から提案されましたが、この内容でいかがでしょうか。
土屋課長補佐	よろしいでしょうか。この答申内容案に加え、今後の生徒数減少などにより、通学について、継続して協議をしていく必要がありますので、それら内容を加える形で提案させていただいてよろしいでしょうか。
会 長	ただ今、事務局からの提案を含んだ形での答申となりますが、よろしいでしょうか。
全 委 員	異議なし。
会 長	ありがとうございます。先ほどスケジュールが示されましたが、より具体的なルール作り、その後、保護者説明会へと続く形になります。今回、通学については答申という一定の形としてまとめましたが、統合準備委員会としましても今後も情報提供を頂きながら、注視していきたいと思います。
会 長	(4) 令和２年度部会経過報告について それでは、「(4) 令和２年度部会経過報告について」の説明を各部会長からお願いします。

各 部 会 長	【 資料4に基づき「令和2年度部会経過報告」説明 】
会 長	ありがとうございます。それでは、ただ今の報告について、ご意見等ございますでしょうか。
全 委 員	意見なし。
会 長	その他にご意見等いかがでしょうか。ないようであれば、来年に新中学校開校となりますが、各部会においても様々な協議事項があると思われます。より良い下田中学校となるよう引き続き、協議を進めていただきたいと思います。
会 長	4 そ の 他 それでは、4 その他に入らせていただきます。新中学校校歌及び下田中学校整備工事について、事務局から発言が求められておりますのでよろしくお願いします。
事務局担当 (原)	【 「新中学校校歌の現状について」「下田中学校整備工事について」状況報告 】
会 長	ありがとうございます。それでは、ただ今の事務局からの報告について、ご意見等ございますでしょうか。
全 委 員	意見等なし。
会 長	特にないようであれば、校歌作成に係る交流事業は来年度へ延期ということで進めていただいておりますが、ミマスさんとの交流できることは、非常に貴重な機会であるので、コロナ禍で大変な状況ですが、粘り強く事業を進めていただきたいと思います。 続いて、委員任期及び次年度委員会日程について、事務局からお願いします。
事務局担当 (原)	【 委員任期及び次回委員会日程（5月予定）について、連絡予定 】
会 長	ただ今の連絡について、ご意見等ございましたらお願いします。
進 士 委 員	部活動については5月以降の会議で決まっていく形になると思いますが、先ほど武井副会長や渡邊委員のご発言もありましたが、部活動検討の資料が足りないと思いますので、今準備できるものは準備していただき、直前に送付という形ではなく、ある程度、余裕をもって提供していただきたいと思います。

会 長	ありがとうございます。事務局にはただ今のご意見の対応をよろしくお願ひしたいと思ひます。その他にご意見等いかがでしょうか。
全 委 員	意見等なし。
会 長	次回委員会は5月ということになりますのでよろしくお願ひします。 最後に本日の委員会につきまして、副会長の武井教授から総括をいただきたいと思ひます。武井教授、よろしくお願ひします。
副 会 長	本日の会議は、部活動について活発に議論が出ました。普段意見が出ないところから意見が出て非常に良かったと思ひます。 部活動の問題は、子供の数が減っていく中で、どうしても全体数として部活を減らしていかなければいけません。どれをどうするかという胃脘各論についてはわからないし、個人の思ひがあります。では、どうやって、次回、結論に導いていかなければいけないのか。こうした難しい課題に当たった時には、原点に返ることが大切だと思ひます。 部活動の原点は、教職員と教育委員会の善意で成り立っているということ、これをまずは認識する必要があります。部活動をやらないことに対して教育委員会や学校が責められるものではなく、この部活というものは世界には例がなく、日本以外には存在しない日本国独自のものになります。中学校の先生は多忙化を極める中、部活動については善意で行っていただいています。それが大前提になります。 次回の会議に向けて、私たちはそれぞれ言ひたいことを言ひました。出せる範囲で、自分たちが考えてきたことを報告していただきたい。ですが、出し切れないほどの善意を強要することをしてはいけないと思ひます。 私自身、事務局の対応を聞く限り、個人的なことで今回の提案を出しているとは思へません。これから下田が発展していくことを十分に組み込まれて、考えられていると思ひます。部活動は善意で成り立っている以上、それを受け入れるのは市民社会だと思ひます。部活動は文部科学省で推奨はされているが、教育課程外のものです。例えば、部活動外で市民が善意でクラブ等として立ち上げるのなら可能性としては考えることができると思われます。また一番大切なことは、そうした活動をする子供たちが後ろめたい気持ちにならないようにすることです。今回、これだけ意見を言ったわけですから、次回、事務局が出していただいた意見は受け入れるべきだと思ひます。私は、それを踏まえて、心を砕いて気持ちの上で応援していこうと思ひます。 私からは以上になります。本日はお疲れ様でした。

会 長	5 閉 会 16 : 10 ありがとうございました。それでは、これを持ちまして、第 14 回下田市立学校 統合準備委員会を終了させていただきます。本日は、ありがとうございました。
------------	---